



「しばた」
を知って楽しみ、
「新しいしばた」
の町をつくる新聞

発行人＝阿部 聡

発行所／(有)アミックス
〒957-0021 新発田市五十公野 4837-6
tel.090-2733-3568 fax.0254-23-6946

そろそろ、
大人の旨さが
わかってきた。



菊水酒造株式会社
〒957-0011 新潟県新発田市島潟750
www.kikusui-sake.com
お問い合わせお客様相談室
TEL 0120-23-0101 FAX 0120-23-5254
受付時間/平日10:00~17:00 (土・日・祝日を除く) お酒は20歳になってから。

市民交流と賑わい創出
議会機能と共存へ

新市庁舎4階 賑わい広場へ

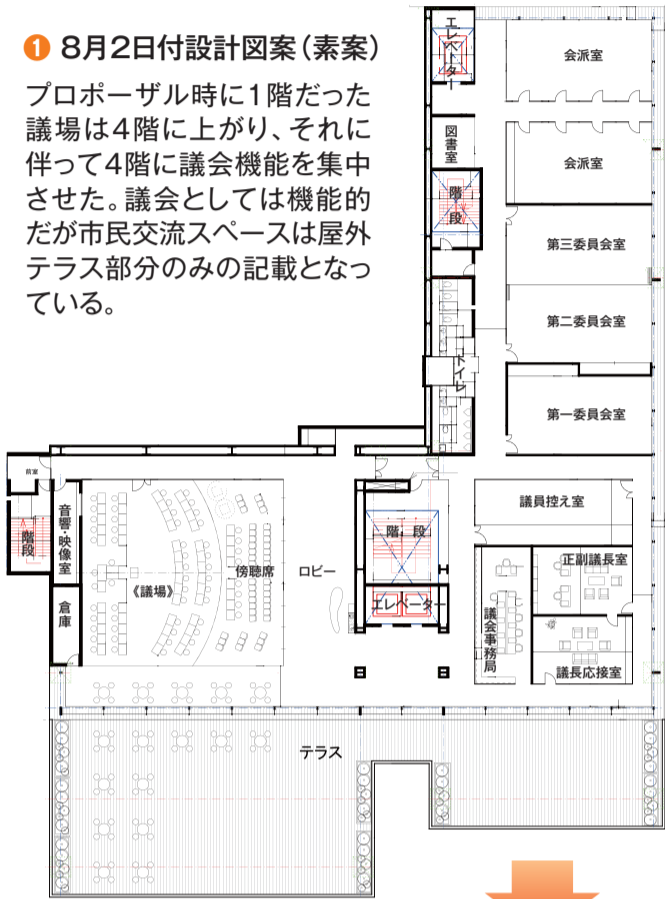
議場は様々な使い方が可能な「大ホール」に設計を変更した

前々号で、新発田市役所新庁舎(平成27年度完成予定)の8月2日付設計図案(素案)を紹介した。4階フロアを議会機能が占有する形となっていたことから、位置選定の理由やプロポーザル時の提案「中心地の活性化」「賑わい創出」「市民交流の促進」に反するとして「議会の協力と市長のリーダーシップの発揮」によって、当初コンセプトを設計に反映すべきだと主張した。

その後、発表された10月31日付設計図案を見ると、4階議場は90度向きを変え、壁と椅子・机は可動式となり、名称も「議場・大ホール」となっている。議会開会時はまったくのオープンスペースとして、また壁を閉じてのコンサート、仮設ステージを設置しての演劇上演や可動スクリーンの設置が実現すれば、ミニ映画館としての使用も可

① 8月2日付設計図案(素案)

プロポーザル時に1階だった議場は4階に上がり、それに伴って4階に議会機能を集中させた。議会としては機能的だが市民交流スペースは屋外テラス部分のみの記載となっている。



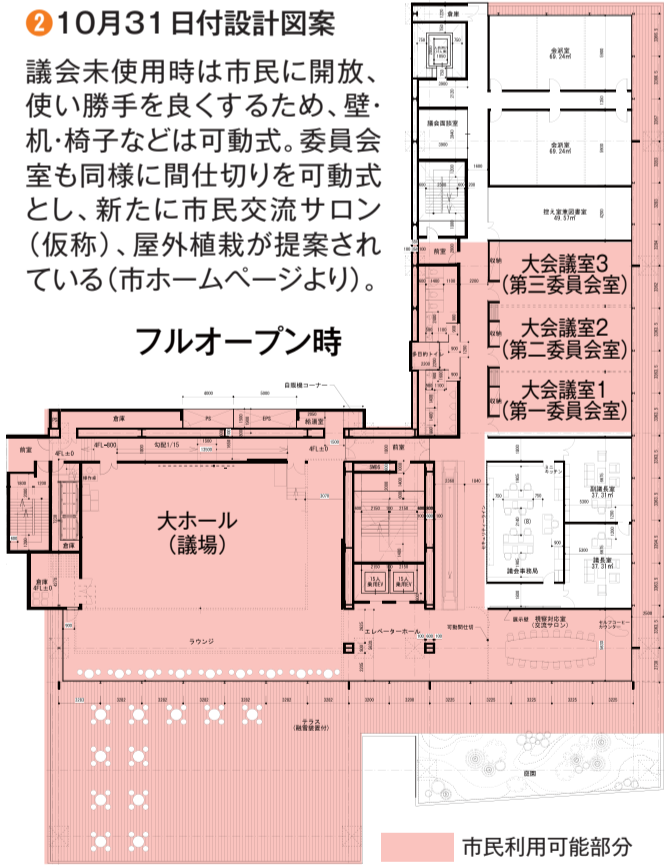
能となった。つまり、壁・椅子・机・ステージ・スクリーンの有無、さらにテラスとの連動など、その組み合わせによって、様々な使い方が出来るように改良されている。

議場以外では、「視察対応室・市民交流サロン」も付加され、当初「委員会室」としてクローズされていた空間も「委員会室・大会議室」に変更された。こちらも壁を可動式として、最大180㎡の空間が確保できる設計だ。このほか、テラス部分には緑の植栽(ミニ庭園)を新設、テラス部分を広げて回遊できるようにした。これは、ラウンドテーブル(市民意見交換会)の参加者の意見が生かされた。

② 10月31日付設計図案

議会未使用時は市民に開放、使い勝手を良くするため、壁・机・椅子などは可動式。委員会室も同様に間仕切りを可動式とし、新たに市民交流サロン(仮称)、屋外植栽が提案されている(市ホームページより)。

フルオープン時

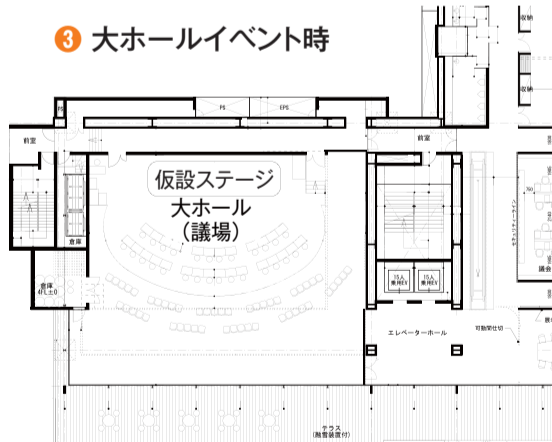


「誰がどう使うか」の準備が必要
中心市街地の空洞化は日本全国どこでも見られる現象である。しかし、手をこまねいては、何も変わらない。新発田商工会議所では「まちづくりビジョン検討委員会」が、また有志による『新発田未来会議』なる組織も発足した。既存の組織・団体はもちろんで、個人のレベルでもまちづくりに対して、考え話し合い行動することが求められる。具体的に「誰がどう使うか」「いわゆるソフト」の開発が必要である。

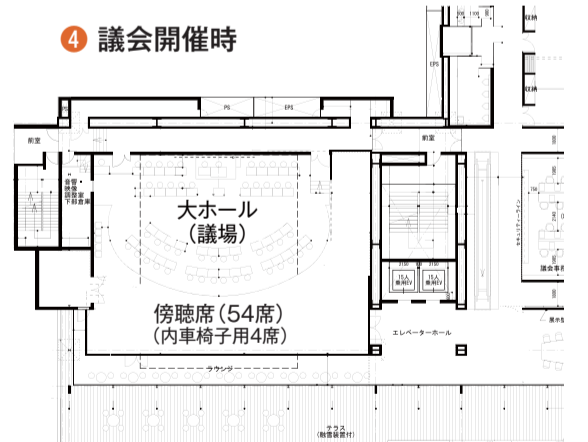


「仙台・メディアテーク」(図書館・ホール・スタジオ等を持つ複合施設)の防音機能付可動壁(右側奥)

③ 大ホールイベント時



④ 議会開催時



コラム

心に明かりが灯るのはいつ?

▼11月の連休、岩手県大槌町へ行ってきた。広葉樹林の紅葉が海に影を落とし、ことさら美しかった。しかし、壊滅的な被害を受けた町に目を転じれば、津波にのまれた家のコンクリの基礎だけがどこまでも広がっている。▼ラグビーで有名な釜石市の隣町、大震災の津波で町民約1万5千人の約1割にあたる1千5百人が死亡または行方不明、町長以下町幹部ら20人も犠牲になった。▼海岸にはあいかわらず津波ガレキが山積みでガレキを分別する二次置き場に向けてトラックの往來が激しい。地盤沈下のため満潮になると、潮が写真を撮っていた足元まで来た。海岸から1km以上離れてもこのありさまだ。▼防潮堤を再建して、かさ上げしない限り住めないが、もうすぐ2年になろうというのに、全然進まない」と、建屋は流されたものの残された給油器で営業していたガソリンスタンドの人。大槌町には焼却場がなく、国や他市町村の援助を待つしかない。▼新潟市などが大槌の木材チップを引き受けるべく試験焼却を始めたが、反対も根強い。そのことを伝えると「私らがガレキの隣で普通に暮らしてると、さすがにねえ」と怪訝な表情を浮かべた。▼ガレキの山から約2km離れた山沿いには仮設住宅、3km離れたところに仮設の学校。折しも学校のフェンスにクリスマスイルミネーションを飾る作業をしていた。どちらも山間にあるため、午後3時半というのに日陰で暗い。せめて心に明かりを灯したい。



大槌町

楽しいイベント目白押し 官民あげての賑わい創出

10月から11月にかけて、新発田では官民による観光イベントが目白押しだった。いずれも大好評で、今後の展開も大いに期待できる。主だったものを簡単に紹介する。

「新発田の酒は料理の味を引き立てる」と再確認

城下町しばた 酒の陣

10月20日(土)、地域交流センターあおり館(新発田市中心部)で、市酒造・菊水酒造・ふじの井酒造・金井酒造の市内4つの蔵元が開催。約450人が参加した。各蔵元の銘酒の試飲のほか、「全国きき酒



なんと1日で千八百個売れたメンチカツ 阿賀北浮揚の最初のイベント、大成功!

食 King Agakita+



人気の「ふじくら」のメンチカツ

10月27日(土)には、地域交流センターで、阿賀北の「旨いもの」を一堂に集めた初の食イベントが開催された。粟島浦村を除く7市町村33店舗が参加し、1万6千人を集めた。その目的は「他の地域に比べて遅れていると思われる阿賀北地区が結集することで、食も観光も『阿賀北ブランド』で売り出したい。実はこの地域は村上や越後も同様で、全国で勝負できる特産品を持っているのです。B級でなくA級で勝負です」と主催者の新発田市観光振興課の清田さん

選手権第2回大会予選(2名選出)「地酒にあう」馳走販売「蔵元トークセッション」を開催した。また、協賛イベントとして10月1日〜31日までの1か月間、新発田市内飲食店31店舗で「地酒に合う地場産食材を使用したメニュー(有料)」が味わえる企画も同時に実施した。



4つの蔵の個性の違いを楽しんでいた

大事な観光資源なんですと力説した。従って「すぎさき」さんや五十公野の「ふじくら肉屋」さんなど、この種のイベントに初参加の店にも積極的に声をかけて出店を促した。その結果、「ふじくら肉屋」さんには1時間待ちの行列ができて、千八百個のメンチカツを売ったが、店主の藤倉さんは「越後もち豚だもの旨いに決まっている」と涼しい顔をして、イベント後に新しいお客様が店を訪れるようになったと喜ぶ。また、船を贈った縁でお札にと参加した右巻雄勝の生はたて焼き(本紙前号参照)



雄勝のホタテ焼

何に出会えるかワクワクドキドキ 町歩き楽しさと笑顔があふれる しばた100円商店街

10月20日(土)、新発田の中心商店街、上中・下町の個店約60店舗が、すべて100円の商品(サービス)を提供した。ほとんど宣伝しなかったものの、約6千人もの人手で賑わった。主催者代表の荻野秀彦さん(坂のん社長)は「お客さんと楽しくコミュニケーションして、商店街って楽しいんだと知っていただきたかった」と目的を語り、「やでもか100円にこだわって、とにかくお客さんが喜んでくれるように面白いもの、楽しい商品を集めました」とのこと。確かに坂のんの「足袋ソックス」は大人気。またセキカワの「ガラス割り」も奇抜なア

も大人気だった。長い行列を見て、朝2時に漁をして5時に石巻からほたてを運んだという漁師の末永千一郎さんは「生きてるほたてを食べてもらいたくて、高速度で飛ばした」と嬉しそうに笑っていた。主催者は「次回は阿賀北全域から、地域もジャンルもまんべんなく、しかもいいものだけを集めたい」と言う。なお、「しばた食と職のおまつり」と併催したことで相乗効果を生んだこと、2日目は突風とゲリラ豪雨のため早朝に中止を決定したが、FMやホームページを通じて素早く告知していたことも評価している。

ガスを使った豊かな暮らし。 「コロケさみっと」大好評 第2回コロケさみっと

10月20日(土)・21日(日)、第38回を迎えたコモプラザでのガス展(新発田ガスグループ主催)では、昨年好評だった「コロケさみっと」を拡大、コロケ学会会長の長岡貞夫さんの「丹波黒豆コロケ」ほか9種類のコロケを一堂に集め、人気を博

アイデアで行列ができた。この試みは山形県新庄市で始まり全国に広がりつつあるもので、市職員との雑談の中から実行に移された。あまりの人気ぶりに11月23日(祝)に早速第2回目が開催された。将来的には中央商店街など、少しずつ広げて、参加店も増やして、継続的に楽しんでもらえるイベントにした。私たちに「お客様の笑顔が何よりのご褒美です」と、実行部隊を引っ張った関川良平さんは自信をみせた。



した。2日間で1万3千人の入り込み、コロケ3千個・メンチ2千個を完売した。「ガスを上手に使った豊かな暮らし」の提案というよりも、「普段ガスを使ってきたさっている皆さんに感謝する意味で、思いつき楽しんでもらいたい」という新発田ガス社長・佐藤哲也さんの思いをプロデューサー役の高橋智志さん(ニコタンのデザイナー)がカタチにしたもの。「こんなに喜んでいただけたら来年は全国各地の地コロケを集めてみたい」と夢を語った。他には「ニコタンのフアファ」や「本宮宏美フルーツコンサート」が大人気だった。なお、本来のガス展では、ガスを使って自宅等で発電と給湯ができる「エコ・ファーム」が注目を集めていた。発電効率が非常にいいため、環境にやさしいシステムだ。



「だったんそばクリームコロケ」の新潟調理師専門学校

<p>蟻塚税務会計事務所 新発田市大栄町 7-1-6 TEL.0254-23-2222</p> <p>飯豊電設工業(株) 新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134</p> <p>(株)伊藤組 新発田市島湯 1273-1 TEL.0254-22-4176</p> <p>(株)イノウエ 新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056</p> <p>(株)岩村組 新発田市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550</p> <p>SODデザイン 高橋智志 新発田市新富町 1-1-3 ストライビル2階 TEL.0254-24-5121</p> <p>小野寺税務会計事務所 新発田市大栄町 2-7-7 TEL.0254-22-3497</p> <p>(株)下越道路 新発田市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296</p> <p>(有)クサカバモーターズ 新発田市五十公野 4836 TEL.0254-22-6311</p> <p>(株)じまホールディングス 新発田市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3381</p> <p>小林税務会計事務所 新発田市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705</p> <p>小柳産業(株) 新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010</p>	<p>茨木建設(株) 新発田市長畑 284-1 TEL.0254-23-6851</p> <p>篠田労務管理事務所 新発田市新富町 1-5-9 TEL.0254-22-5649</p> <p>新発田建設(株) 新発田市富塚 1942 TEL.0254-27-5711</p> <p>島津印刷(株) 新発田市富塚 1419 TEL.0254-27-2101</p> <p>(株)新和組 新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011</p> <p>大進電業(株) 新発田市佐々木 1895-9 TEL.0254-21-5000</p> <p>(株)大通 新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191</p> <p>新潟ファームサービス(株) 新発田市五十公野 4104-1 TEL.0254-20-3828</p> <p>フジマ舗道(株) 新発田市島湯 4197-3 TEL.0254-26-5030</p> <p>扶桑畜産(有) 新発田市米倉宇鳥越 4666-1 TEL.0254-28-5136</p> <p>山田建設(株) 新発田市大友 3856 TEL.0254-25-0700</p> <p>村上館湯伝 新発田市月岡温泉 230 TEL.0254-32-2231</p>	<p>介護老人福祉施設 陽だまり苑 新発田市岡田 1746-1 TEL.0254-20-3800</p> <p>複合型福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発田市諏訪町1-10-38 TEL.0254-24-1111</p> <p>(株)安田組 新発田市豊町 4-3-39 TEL.0254-24-1761</p> <p>(株)ワゴードライ 新発田市佐々木 3445 TEL.0254-27-2261</p>	<p>四季折々の美味</p> <p>割烹旅館 多奈可や</p> <p>新発田市稲荷岡 2066 ☎0254-41-2013</p>	<p>はな やす</p> <p>葬儀 花安 新発田斎場</p> <p>24時間受付</p> <p>斎場 / 新潟県新発田市荒町 1521 ■ 仏事センター / 新潟県新発田市荒町 1490</p> <p>TEL (0254) 22-1320 FAX (0254) 24-5156</p>
---	---	---	---	---

伝統の43回、3万人が押し寄せた。居ながらにして、全国味の旅

全国うまいもん横丁

11月1日(木)から4日間、カルチャーセンターで恒例の「全国うまいもん横丁(旧全国観光みやげ品展示即売会)」が開催されて、118店舗が参加、約3万3千人が詰めかけ、約6千万円を売り上げた。

人気は香川県の「かねすそ」のわらび餅。品質の良さが知られる新発田「宮村製菓所」の車麩など、定番商品がよく売れていた。新たに登場した成宮賞の「成宮ロール」、横浜中華街・大珍楼の「肉まん」にも行列ができ、「駅弁・空弁」の限定販売はあっという間に売り切れた。

また、今回は「忠臣蔵・堀部安兵衛コーナー」も登場、高田馬場の酒屋・小倉屋の清酒や新正業の切腹最中が評判を呼んだ。



そばまつり

「1日・2日の悪天候がなければ、もっと売れたでしょうね。ただし、来年は没落解消のため、シャトルバスなどをもっと工夫して、お客様や町の人に迷惑がかららないように努力する必要があります」。1日当たりの売上は昨年が約千三百万円、今年が約千四百万円と伸びていることから、「来年は出来れば5日間の開催とし、目玉になるような有名店舗の出店要請に力を入れ、もっと喜んでもらうように頑張ります」とは、主催した新発田市観光協会・増子事務局長。大滝事務理事は「あんまり売れたので横浜大珍楼の社長さんがお礼に来まして。そのとき『10万都市だから、そんなに売れないと思っはいいけない。新潟から車で30分、新発田の商圏は新潟から北全部だとすれば、百万人が商圏です』と書いていたのが忘れられません。確かに、あやめ祭りのときも市内客より新潟市の客のほうが多かったのですから」と続けた。このことから、今後はまずは新潟市をターゲットとして観光客誘致戦略を練っていくという。なお、「菊花大祭」「そばまつり(約3千6百食)」「植木市」の併催「エフエムしばた15周年イベント」を併催したことも大いに誘客につながった。

毎週土曜日、街角でアットホームでワイワイ楽しく料理教室開催！セキカワクッキングコミュニティ

明治28年創業と百年以上の歴史を持つ「セキカワカモノ」が10月に店内を改装し、店の一角にキッチンスペースを用意し、料理教室や調理に関する講習会を開いている。11月3日(土)のリングケーキに始まり、キッチンツールセミナー、秋鮭とほうれん草のキッシュ、いきいき巻き寿司と続いた。12月は1日調理器具実演、5日手作りピザ、8日ロールケーキ、14日ゆで餃子、15日調理器具実演、18日かきの煮物など、22日調理器具実演と続く。毎週土曜日開催が基本だが、週2回の日もある。詳しい日程は「セキカワカモノ」のホームページで検索のこと。商店街の1店舗で毎週料理教室を開くというのは画期的なことで、日本ではここだけ。「もともと新発田は食材が豊富。もっと料理を好きになってもらいたい、もっと美味しく作ってもらいたい、もっと料理を家族で楽しんでもらいたい。そうすれば家庭の団樂につながります」と関川金物5代目社長の関川良平さん。また、新保裕也店長は「料理でなくてもいいんです。空いていればいつでも使ってください。お茶する場所でもいい、とにかく気軽に寄ってほしい」と言う。商店を媒体に人と人をつなげる場所にしてほしいという新しい試みだ。関川さんは「ここで育った人間だから、この町を賑やかで笑顔にあふれる町にしたい。そしてここは調理器具、キッチン用品の専門店ですから、良い商品を提供すること、皆さんの暮らしのお役にになりたいんです。連続料理教室はその一環です」と結んだ。

このほかに「大倉喜八郎の会15周年記念講演会(東京経済大前学長・村上勝彦さん)」「写真のまちプロジェクト」や長徳寺での「ジャズコンサート」など、イベントは目白押しだった。これだけ連続的にイベント



が打たれるまちはそうそうない。しかし、惜しむらくは告知が不十分でせっかくの企画も見逃してしまいがちだ。情報を集約し共同で告知するなど、プロデュースの方法を進化させれば、もっと多くの人が「新発田」のまち、「新発田」の暮らしを楽しめるだろう。まちづくり社会的な組織・機能が必要なのである。

市長動静(観光・産業振興)

◎第1回食 King Agakita+

挨拶で「2014年に北陸新幹線が金沢まで伸びる。すると上越新幹線は支線化し、本数が減る可能性がある。相手は加賀百万石だ。対抗するには阿賀北の市町が団結してPRしなければなら



ない」と開催の意義を力説した。

中古リユース業界日本最大級！
めざせ1,000店舗!!
ハードオフグループはリユースを通じて循環型社会に貢献してまいります

全国 680店舗
平成24年9月末現在

お売下さい

<p>HARD-OFF</p> <p>ノートパソコン・アンプ・スピーカー・ギター・キーボード・液晶テレビ・DVDデッキ・DVDソフト・デジタルカメラ・ゲームソフト・カーグッズ・プラモデル など</p> <p>新発田店/TEL (0254) 22-1755</p>	<p>OFF HOUSE</p> <p>ブランド品・アクセサリー・テーブル・イス・インテリア照明・ギフト・レディース・メンズ・子供服・冷蔵庫・洗濯機・掃除機・スポーツ・アウトドア・生活雑貨・ホビー など</p> <p>新発田店/TEL (0254) 23-7877</p>	<p>Garage Off</p> <p>アンプ・スピーカー・ナビ・ステアリング・スポーツシート・工具・エアロパーツ・マフラー・タイヤ・アルミホイール・専門月刊誌・ラジコン・ミニカー・プラモデル・自転車 など</p> <p>新発田店/TEL (0254) 26-2510</p>
<p>Hobby Off</p> <p>食玩・カプセルトイ・年代物玩具・ミニカー・カード・Nゲージ・スケールプラモデル・ラジコン・ノベルティ・フィギュア・超合金・TVゲーム各種本体・ゲームソフト など</p> <p>新発田店/TEL (0254) 20-5450</p>	<p>BOOK-OFF</p> <p>読み終わった本(コミック・活字本・月刊誌など)・CD・DVD・ゲームソフト など</p> <p>新発田店/TEL (0254) 26-6300</p>	<p>お店情報をケータイでチェック!!</p> <p>携帯用ホームページアドレス http://www.hardoff.co.jp/!</p>

営業時間/AM10:00~PM8:00
ブックオフ新発田店のみ AM10:00~PM10:00
◆お客様相談室/TEL.0254-23-6102(受付時間/水曜日を除く10:00~19:00) ※出張買い取りについては各店舗までお問い合わせ下さい。

SWビル ソフトウェアビル 1F・3F
1F:59坪 3F:28坪
テナント募集
新発田新発田住吉町5丁目12-22
お問い合わせ TEL.0254-24-4343 山本

11/23~12/9
お歳暮フェア
ルレクチェ 2kg
1箱 2,500円~
冬野菜特売
当店 お買い上げ商品に限り
送料500円 SALE
※20kgまで。クール便、離島は別途

農家の直売所
とくとくと市場
●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480
☎0254-20-2229
●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14
☎025-274-2229

成功先進地
視察事例①

賑わい創出のために 「場・人・計画」が必要

「市民交流」をキーワードとする新市役所を核に、駅前には「学生・生徒の居場所」と「観光振興機能」を持たせた複合施設、将来的には新発田城周辺を歴史資料館などの観光施設のある歴史・文化ゾーンとしたいという

のが、市長の大まかな構想であることは、前号の取材で明らかになった。では、そのような施設を「活性化」「賑わい創出」「市民交流」「観光誘致」に生かすためにはどうすればいいのだろうか。先進成功事例を紹介する。

「一度来ればそれでいい」のではなく 「何度も足を運びたくなる仕掛け」を

八戸ポータルミュージアムはっち

人口28万人の北のまち、青森県八戸市に平成23年2月にオープンした「八戸ポータルミュージアムはっち」は、開館以来1年で90万人の入館者を記録、中心市街地の通行量30%アップ、館のある区画では通行量90%アップ、中心市街地では新規開店が23店舗と目覚ましい成果を挙げている。

しかし、ミュージアムというから、美術館かと思われがちだが、歴史はほとんどレプリカ（複製）である。「ポータル」とは入り口の意味。八戸の文化・観光の入り口としての機能を自指しています。「フィールドミュージアム八戸」という事業、つまるところ「場」として、市内各地の観光地へ出かけてもらうための施設なんです」と館長の風張知子さん。風張さんは観光課長・中心市街地活性化推進室長を歴任した人物で、この人から「はっち」の狙いが分かる。強いリーダーシップのもと、八戸の町全体のデザインの中から、平成17年度から5年かけて、中心市街地の活性化を目指して整備を提案、庁内検討会議（10回）やアドバイザー会議（5回）など、きっちりと計画を積み上げてきたのである。

「はっち」は、実は複合施設。まちの人の日常的な利用を促す

大まかに、観光案内と特産品販売・多目的広場を1階、シアター・スタジオ・和のスタジオ（畳敷き）・フアンジ等を2・3階、こどもの居場所としての「こどもはっち」が4階、創作活動を支援する「レジデンス」と呼ばれる宿泊施設を5階に配置、それぞれの階に観光展示ブース・休憩スペース・地元の名産を味わえる飲食店（チャレンジショップ）を適宜配している。

特徴的なことは機能別に狭い個室に仕切られていない、壁のないオープンな構造とし、利用者が思い思いに使っていること。もちろんリーススペースもあり、高校生などが自分で企画する「自習スペース」として使っていた。特に椅子はすべて異なるデザインで、まるで「いすのお祭り」のように語りかけている様子。展示物はすべてレプリカで、控え目な展示で、「いつか見てみたい」という雰囲気だが、デザイン性は高い。開館時間は午前9時～午後9時、飲食自営によるのも公設施設としては驚きである。由緒のことも公設施設としては驚きである。

イベントは項目だけ挙げるのではなく、例えば11月は46項目、著名人などを招聘しての講演会などではなく、いずれも手作りにこだわっている。11月23～25日は「はっち市」と称して88人（店舗）の工芸作家による展示即売会を実施、3日間で3万人を集客した。これらの企画を数多くこなしているが、アドバイザー制度を設け常に情報を収集して、他では行っていない斬新な企画で八戸を発信、「八戸レビュー」という企画ではその記録を出版、本屋で全国1位の売れ行きを記録したこともある。

「こどもはっち」で子育て支援。若い人に八戸を好きになってもらいたい

幼い子どもたちの居場所としての「こどもはっち」（午前9時～午後4時半）は、NPO法人が別途運営を受託し、子育て中の保護者に好評で、「お年寄りも大事ですが、子どもはもっと大事」というのが市長の考えで、あえて観光・文化発信施設に複合的に付加した。「はいはいサークル（乳幼児・幼児用）」「交流サロン」「おもちゃタワー」「はっちのみせ（こども遊び）」「おこさまテーブル（お子様サイズの作業台）」「えほんてんぼぼうだい（絵本棚）」「いぐさステーション（木のプール）」「いぐさステーション（木のプール）」「かみしばいおちゃしし」など、年齢や目的別に様々な工夫がしてあり、日当たりのいい空間で子どもたちは遊びに夢中だった。内部はほとんどが八戸周辺で切り出した木材で造られており、デザインもオリジナル、利用者が絶えない。



こどもはっち

これらは必要に応じて訪れるものだが、「何となくおしゃべりしたり、ポロっとしていたりする人が多いのに気づきませんでした。たか、風張さん。用事がなくても何となく足が向く、そういう施設を目指しています。来る必要がなくても、誰でも見ることが出来る。お茶や踊りのお稽古で使う方も多いですが、壁で仕切られた個室ではないので誰でも見られる。すると自分もやってみようと思う人もいます。市民に文化が自然に根付いていく。それも目的です。夏は冷房効かして快適にして、家に入るよりいいですよ。」

そして、商店街を通る人を増やすことによっても活性化を促しているのだ。

※今回は、岩手県紫波町紫波中央駅前、図書館と子育て支援施設と商業施設を持つ市民複合施設オガールプラザを紹介予定。



吉田育子 著 「おいしい米粉レシピ」 発売中!!

★大好評★

吉田育子 Ikuko Yoshida 春夏

おいしい米粉レシピ Komeko Recipe

定価 1600円 (本体1524円+税)

カンタン美味しいレシピ 27品

大判だから見やすい

米粉コラム付き!

新潟調理師専門学校 校長 吉田育子

日本人の主食であるお米を毎日食べてほしい、そんな思いからこの本がうまれました。米粉は特徴を生かせば、いろいろな料理に幅広く使え、おいしく簡単に調理できます。家庭ではまだまだ使ったことがない主婦の方も必見です。お米、米粉の意外な美味しさに出会えることと思います。

▼本についてのお問い合わせ・お申し込みはこちらまで 送料無料

新潟調理師専門学校 TEL 025-244-2161 FAX 025-247-7928

〒950-0906 新潟市中央区東幸町 8-8

橋本啓子 著 AMIX刊・A5判160ページ

水と土の新潟

泥に沈んだ美術館

緊急出版

新潟市の「文化行政」および「文化的シティプロモーション」の今後に向けて

美術館改革として現市長が新潟市美術館館長として招き入れた北川フラム氏。氏がディレクターを務めた2009年「水と土の芸術祭」におけるカビ発生の事故、翌2010年同美術館の企画展中に発見されたクモと虫。この事件は、県内外に新潟市民の恥として広く全国に報道された。大合併を経て、本州日本海側初の政令市として経済、文化、あらゆる面で変革を迫られる新潟市。が、その一歩であったはずの構想は、行政機構と市民をほとんど変革することなく終焉した。その蹉跎の本質はどこにあったのか。

二度と同じ過ちを繰り返さないために、そして今後の方向性を決めるための素材として、事実に基づいた記録を読んでいただきたい。

水と土の新潟

橋本啓子

問い合わせ: ☎025-234-6645

定価: 1,000円 (税込)

http://www.sop-shop.com/

アマゾンでも販売中!!